

日本人3氏にノーベル賞



2005年に来日し、インタビューに答える南部陽一郎氏



ノーベル物理学賞受賞が決まり、記者会見する益川敏英・京都大名誉教授



笑顔で記者会見に臨む小林誠・高エネルギー加速器研究機構名誉教授

物理学賞 小林、益川、南部氏 素粒子物理学で業績

【ストックホルム7日共同】スウェーデンの王立科学アカデミーは七日、二〇〇八年のノーベル物理学賞を、素粒子物理学の「標準理論」と呼ばれる理論体系構築に重要な貢献をした小林誠・高エネルギー加速器研究機構名誉教授（64）と益川敏英・京都大名誉教授（68）、南部陽一郎・米シカゴ大名誉教授（87）に授与すると発表した。

日本人のノーベル賞受賞は、〇二年の小柴昌俊東京大特別栄誉教授（物理学賞）と田中耕一島津製作所フェロー（化学賞）以来で計十五人。物理学賞受賞者はこれで七人となる。日本人が共同受賞するのは初めて。理論物理学は日本が得意とする分野で、一九四九年の故湯川秀樹博士、六五年の故朝永振一郎博士に次ぐ受賞。

授賞式は十二月十日にストックホルムで開かれる。

受賞理由は、小林、益川両氏が「クォークが自然界に少なくとも三代以上あることを予言する、対称性の破れの起源の発見」。南部氏は「素粒子物理学と核物理学における自発的対称性の破れの発見」。

南部氏は素粒子論で半世紀余り、世界をリード。長く米国で研究生活を続け、七〇年に米国籍を取得した。特に南部氏が提唱した「対称性の自発的破れ」という現象は、本来質量を持たない素粒子が、質量を獲得するための基本的メカニズムとして注目される。



電子速報版

2008年10月7日(火)発行

発行所

山形新聞社

山形市旅籠町二丁目五番

電話 代表023 (622) 5271

Copyright (c) 2008
Yamagata Shimbun

山形新聞ホームページ

web <http://yamagata-np.jp>

携帯 <http://yamagata-np.jp/k/>

購読申し込み(9~17時)

0120-81-8040

詳しくは山形新聞をご覧ください。